

『ついに登場！ C型肝炎治療薬 最終兵器!?!』

肝臓川柳



『ついに出了 夏の終わりに ハーボニー』

(「夏の終わりの ハーモニー」1986年／井上陽水・安全地帯)

.....ノノノノノ

9月1日にギリアドより、“ハーボニー”という新しいC型肝炎ウイルス治療薬が発売されました。

NS5A 阻害薬のレディパスビルと NS5B 阻害薬のソホスブビルの配合錠です。

HCV ジェノタイプ1型のC型肝炎(慢性肝炎、代償性肝硬変)に適応があり、ウイルス駆除率はほぼ100%、これまでインターフェロンベースの治療で全く効果がなかった方でも100%という臨床試験結果です。

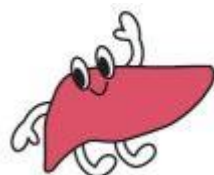
一日一錠内服12週間で、価格は一錠8万円以上と高額ですが、国からの助成制度を使えば、自己負担は最大で2万円/月となり、それ以上はかかりません。

ただし、前回インターフェロンフリーの経口2剤で効かなかった方には耐性出現の問題があり、推奨されていません。

また、一部の他の薬との併用は禁忌であり、抗不整脈剤のアミオダロンを使用している方には推奨されていません。

ハーボニー投与にあたり、念のために心電図をチェックすることを勧める場合もあります。さらに、腎機能障害が中等度以上(eGFR 30未満)ある場合も禁忌です。

このようにたいへん効果の高い薬ですが、高度な判断が必要なため、治療にあたっては肝臓専門医へ依頼することになっています。



これだけ覚えておけば損はない!

今回のポイント

1型C型肝炎に適応を持つハーボニーがついに発売されました。

ウイルス駆除率は適応条件を満たせば、ほぼ100%とされています。

禁忌薬があったり、心電図チェック、腎障害の方で使えない方もいるなど高度な判断が必要なので肝臓専門医へ依頼するようにしましょう。

(文：福井県肝疾患診療連携拠点病院運営委員会 野ツ俣 和夫)